

この子らと

令和2年11月

まことの保育



十五夜

鹿児島竜谷学園和光幼稚園



園長 川口公男

温かいことばは、温かい人生をつくる

子どもの作文「お見舞い」

日曜日になったら病院に行きたい。病院に行ったら早くおかあちゃん会いたい。階段をにいちゃんと押し合いながらあがる。おかあちゃん、早く退院してきてほしい。おかあちゃんが退院してきたら、わたしは一番はじめにおかあちゃんにくらいつく。

そして、おかあちゃんにわたしの話を聞いてもらおう。この約束をしたら、なぜかおかあちゃんが泣いた。



子どもの作文「すみれの花」

ものすごく寒い日、ぼくは学校の帰り道に紫の花を見つけた。「あっ、もう、すみれの花が咲いている。ぼくは、うれしくなった。そのすみれの花をとって走って帰った。

戸を開けるなり、「母ちゃん、見てごらんよ。」すみれの花を差し出した。

そしたら母ちゃんが「すみれの花ぐらいで大きな声を出すな。」と顔をしかめて言った。ぼくは何をする気がなくなった。

わたしたちはどんなことでも抵抗はできますが、北風と太陽のように、人の愛ある温かい言葉や行為に対しては抵抗することをやめて、閉ざしている心も開いてしまいます。

幼稚園や家庭でも愛ある言葉や行為が行きかうと幼稚園や家庭が子どもたちはもちろん職員も家族も楽しくて、心の休まる場所になります。

[たった一言が人の心を傷つける。立った一言が人の心を温める]

あの子ども、この子ども、みんな、みんな職員一人一人を先生と慕ってくれます。その子どもたち一人一人の心を満たしてやれる、温かい言葉をかけてやれる職員でなければならぬと思っています。



「クレパス」のみなさんです。写真左から西帯野さん、中山さん、中村さん、栢さん、寺田さんです。

各種行事や各教室を訪問しての読み聞かせ等により子どもたちは喜んだり、涙ぐんだりします。その感動は、子どもたちに「心の鈴」として蓄えられていきます。

心の鈴は、子どもたちの心の中で折に触れて心地よい音色を響かせてくれると思っています。

コロナ禍の運動会でした



運動会は、家族総出の思い出づくりの行事です。そのために健康管理のご協力のもと、人数制限なしの運動会といたしました。

はじめての年少少組の子どもたちから最後の年長組の子どもたちまで一人一人が持っている力を出し切ってくれました。子どもたちからは感動という贈物を受け取ってくださったのではと思っています。

運動会から2週間が過ぎました。コロナウィルスに感染したとの報告は受けておりませんことをご報告いたします。ご協力ありがとうございました。

いもほり、大収穫でした



--	--